



新年明けましておめでとうございます。

皆様には無事ご越年のことと、お喜び申し上げます。「日々新たに」と申しますが、この越年の儀式は「心機一転」を決意できる、大変ありがたい風習であると存じます。皆様にはいかがでしょうか。本年も良き年でありますように、心からお祈り申し上げます。

株式会社MANIX 代表取締役社長 松田 茂樹

創業50周年を迎えて

さて、私事ではありますが、弊社は本年2月1日をもちまして創業50年目を迎えます。長年に渡り、商売をさせていただくことができましたことは、お得意先各位並びに仕入先各位のご愛顧、お引き立ての賜物と、深く深く感謝申し上げます。まことにありがとうございました。今後とも倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

振り返りますと、時代は大きく激しく変化いたしました配送手段ひとつ見ても、直ちに理解できるかと存じます。父親が創業いたしましたころの配送はもっぱら重荷用自転車であったようですが、今ではエアコン付のトラックに変わってしまいました。そして、私たちの仕事も同様に大きく激しく変化をしましたが、私たちは見事に対応し、商売を続けております。この適応力に感動をする者の一人であります。では、今後はどうなるのかと展望をした時、変化は予見できるのですが、行動を変えるのは難しいのが現実かと存じます。しかし、変化への対応力こそが、存在し続けるために必要な力であることは、先ほど確認させていただいたところであります。

MANIXは変わります

「お得意先とともに、地域社会における「住環境の改善」を実現します」

かといって、問屋をやめるものではありません。お得意先様の必要とされるものをお届けするのが本業であり、これが変化するものではありませんが、お得意先様の一仕入先から脱皮をし、パートナーとして認めていただけるべく努力をいたします。その力の方向を「地域社会の住環境の改善」に向けるという宣言であります。以前にも申し上げましたが、我々の市場環境は「需要の中心が、新築からメンテナンス・修理・増改築へと変化をした」といっても過言ではない状況にあります。この現実を直視するなら、我々の仕事の方法も当然変化をしなければなりません。すなわち、貴社を中心とした地域社会に、そこに住む人々（エンドユーザー）を対象にしたビジネスを作り上げるのです。イメージ的に表現すると、農業型「土地がエンドユーザーで、種がニーズで、肥料が販促策、そして受注が収穫」といったところでしょうか。弊社は、お得意先の一連の作業に協力をし、ともに収穫を喜び合えるパートナーシップを確立したいと考え、行動をいたします。今後とも宜しく願いいたします。

最後になりましたが、本年が各社様におかれまして、充実した良い年でありますように、心からお祈り申し上げ、ごあいさついたします。